

2013年11月 第17号

しずおか市 介護相談員だより



発行：介護相談員だより
編集委員会

事務局：静岡市保健福祉局
福祉部介護保険課
TEL 054-221-1202
FAX 054-221-1298

～豊かな日々を過ごすために～

施設は家庭での生活の延長と捉え、利用者の尊厳を守り、利用者が自己実現を図ることができるようサポートしましょう

和気あいあいと！

『認知症の進行を少しでもくい止め、改善し出来ることならご家族の元に戻っていただきたい』という施設のコネクトの下、まずは水分摂取・自然排便などの生活リズムを整えることから、有酸素運動、ウォーキング、そして「個別リハビリ」に取り組んでいます。

計算ドリルだけではありません。「輪投げ」では3回の得点を自分で計算し合計点を発表。「ボール投げ」では、名札を付け自分の名前を言いながら、相手の名前を口に出してボールを渡す。和気あいあいと利用者同士のコミュニケーションがとられています。

(グループホーム)

祝 富士山世界文化遺産登録



「地域の清掃活動」に参加！

世界文化遺産に登録された三保の松原で、海岸のクリーン活動に参加しました。地域の方達や地元の学校の子供達と、きれいに海岸を掃除、その後、宝探しをして楽しみました。(特養)

海が大好き！ 趣味の魚釣りをスタッフと！

ジョイブ静岡の企画『キスの船釣り』に申込、駿河湾の幸「キス」を釣りあげました。魚拓にも挑戦し、釣りの成果を掲示板に披露しました。施設内のあちこちで会話も、関わりも増えて、こちらの成果も上々の喜びになっています。(特養)



「何か役に立ちたい」

写真(97歳)女性、作業室で雑巾を縫っています。ここでは他にも4～5人の利用者が雑巾を作っています。同じ作業室では常に、ボランティアが見守る中、貼り絵、ぬり絵等それぞれ好きなことをしています。

出来あがった雑巾は、保育・幼稚園児、小・中学校の生徒が訪問してくれた時、手渡されています。

「子供の嬉しそうな顔を見ると、役に立っているのかなと思うよ」(特養)



こんな相談がありました



利用者さんからの相談等は事業所の皆さんの努力や工夫によって解決されています

～施設にはこんな風に橋渡し～

利用者さんの声!

その時相談員は!

施設側の対応



部屋が替りがっかりしている

突然に部屋が新館に替った。以前の場所が良かったのに。馴染みの人たちと離れ残念。替ったことを家族にも伝えて欲しい。(老健)

「説明がなかったの? こちらの部屋の方が〇〇さんには良いと思っただんでしょね。お気持ちを伝えますね。」

ご本人への説明が不足していたんですね。馴染みの方との交流を工夫します。家族の了解は取っています。→見守りながら歩行器での移動を取り入れ、馴染みの方たちの場所に毎日通っている。

ミトンの使用(気づき)

ベッドからリビングに出た時もミトンを使用している。見守りが出来るリビングではミトンを外せないだろうか?(老健)

職員より「胃ろうの管を抜いてしまうので、家族の了解も得ています」と返答あり。取り組みができればと伝える。

職員間でミトンの扱いについて検討された。その後「見守りをし、拘束の必要ない場合は拘束を行わない」という方針が出されミトンははずされていた。

ここでの生活に馴染めない

『毎日何もない生活に嫌気がさす』と入所に戸惑いの様子、家族との関係にもイライラの言葉がでる。暴力や怒鳴る行為もあり孤独感がある。(GH)

本人とゆっくり話したあと、本人の言葉や戸惑いの思いを伝える。

管理者が職員にアンケートを実施。職員・関係者で本人への支援が検討され、法人内でのスタッフの入れ替えも含めた取り組みがあった。→イキイキした笑顔の姿が見られた。

平成24年度相談報告書内容

(利用者、ご家族様からの相談事例、相談員の気づきは報告書にて行政に提出しています)

合計 (気づきも含む)	45	39	57	68	53	52	38	106	15	24	6	69	572
相談・報告内容	介護機能訓練	施設設備	コミュニケーション	健康状態その他	食事・飲食	入浴・排泄・清潔	レクリエーション	個人的要望その他	身体拘束虐待	財産管理・家族関係	制度・施策	利用者間の人間関係	合計件数

全国の相談事例もご覧いただけます。

介護保険 地域づくり連絡会のホームページ <http://www.kaigosodan.com/>

こんな相談が掲載されています *入所者への声掛けが無い *朝食前に顔を洗いたい *職員が冷たい・施設を替りたい

新任相談員紹介

退任された相談員に代わり、今年も10名の
新任相談員が加わりました。



阿川 勉



海野 ふさ子



大木 恵子



太田 仔至子



久保田 栄



三枝 千津子



竹村 民子



南谷 美江



みつはし
三觜 多香



村下 美喜子

☆抱負をワンポイントメッセージで紹介致します。(順不同)

- ・利用者さんに寄り添い笑顔で頑張ります。
- ・誠実に笑顔でお話ができる様に努めます。
- ・聞き上手話し上手になれるよう努力します。
- ・今日この時の出会いを大切に活動したいです。
- ・声なき声を聴ける相談員になりたいです。
- ・焦らずゆっくりお声を掛けさせて顶きたいです。
- ・ご利用者の小さな声を傾聴させて頂きます。
- ・笑顔でお話を伺えるように頑張ります。
- ・思いやりの心を忘れずに笑顔で接したいと思います。
- ・笑顔と相手を敬う気持ちで接して行きます。

私が紹介したい！心うたれた本

紹介者 外側志津子(介護相談員)

★ごめんね、僕が病気になって

高見沢たか子著

「さあ定年だ、第二の楽しい人生の始まりぞ！」と期待したご夫婦がパーキンソン病と言う難病になったご主人との介護録の実話です。日常の中で、医療のアレコレ、介護保険制度の壁、病院との関係、家族の事、費用の事、老いのケースが全て解りやすく、又在宅介護についても最後まで記述され、かつ著者も加齢者の一人として今の時代を正確に見つめた視点も書かれていて、老人問題、生きるという事、への参考になる本だと思いました。

春秋社 1800円(税別)



★聞く力 ころころをひらく35のヒント

阿川佐和子著

あらゆる、介護分野で「ケア」と言う内容の実践が大切な時代です。特に相手の方との信頼関係を築く時、また胸の奥に思いを持つ方々には、最大の援助です。特に「聴く」は文字の中に耳と目と心が一つになっています。「傾聴」は喜怒哀楽が双方に伝わり、信頼、安心、蘇生へも連携可能で、老いにとっては、究極の「ケア」かも知れません。これは生活基本の実例集だと思います。我々、相談員もこの「聴く」を常に心に忍ばせて訪問活動をして行こうと思います。

文芸春秋 800円(税別)



平成 25 年度研修情報

実施月	内 容	実施月	内 容
5 月	委嘱式・第1回介護相談員情報交換会	10月	自主ミニ勉強会
6月	自主ミニ勉強会	11月	現任研修(東京)3名(予定) 第3回介護相談員情報交換会 (11/25 決定)
7・8月	相談員養成研修(東京・4日間)10名	1月	自主ミニ勉強会(予定)
9月	第2回介護相談員情報交換会	2月	第4回介護相談員情報交換会(予定)

～私たち相談員は新しい情報や基本を繰り返しかえし学ぶことで、より良い相談員になるよう目指しています～



相談員の声...

第3回介護相談員情報交換会の開催について!今回は施設の皆様もご出席いただき開催します。淑徳大学 社会福祉学科 結城康博教授をお招きして「施設のあるべき姿について」の講演のあと、意見交換を兼ねてグループワークを行ないます。
11月25日(月)もくせい会館 富士ホール 14:00～16:30の開催が決まりました。施設関係の皆様のご来席をお待ち申し上げます。

相談員活動 月に 200 人以上の方にお会いする計算になります。挨拶から始まり希望や意見、近況報告をお伺いしながらの訪問ですが、話の中、たどった人生の様々な経験は、その人の感動そのものだと考え、聞き漏らすことのないように努力しています。

「今日も明日も、たくさんの幸せにめぐり合う事が出来ます様に」と祈りながら、安心して楽しい時間が過ごせる様に微力ながら応援しています。

佐々木 亘

毎月一回、利用者とその家族に軸足を置いた活動が出来るのは介護相談員という役割のお蔭です。触れ合いを通して、その人の人生を知ることは一期一会の場でもあります。

私が活動の中で大切にしていることは、共感すること、快か不快かの視点です。少しでも心の解放を願って、生きるための基本的な事、不安の払拭の2つに意識を持って接しています。「若くないんだから気をつけておやんなさいよ」に支えられ出会いに感謝して。

杉山 道子

介護相談員受入状況

介護相談員派遣対象の事業所	全事業所数	派遣受入事業所数 2013年10月2日現在			
		葵 区	駿河区	清水区	合 計
介護老人福祉施設	32	11	8	13	32
介護老人保健施設	19	7	5	5	17
特定施設入居者生活介護	23	7	2	3	12
地域密着型	介護老人福祉施設	2	1	1	2
	特定施設入居者生活介護	2		1	1
	グループホーム	98	18	18	21
合 計	176	44	34	43	121

編集後記：

発行日 2013年11月1日

静岡市では居住系介護施設に特化した相談員活動を行っています。施設での利用者の事を考えると、ご本人の気持ち、ご家族、施設で携わる各部門の従事者、高齢社会で生活している住民や行政、それぞれの立場で何を意味するかをいろいろな観点から考えて互いに理解しあい、その思いを共有出来ればと思います。(増田 記)

編集委員： 石原幸子 榎本昭子 玉村豊子 外側志津子 深澤弘子 成瀬明美 堀登志江 増田好司